

この本の使い方

●例題・練習問題

文章中から答えを見つけられる「分析・評価問題」と、文章中からは見つけられないが読んで考えるところから「推論問題」とが、思考のプロセスに沿って出題されています。



文章で書かれている内容が「要するに」どのようなものかを確認していきます。

●「読む基本」

物語や説明文を読むときに役立つ視点を、学習していきます。

●「思考・表現チャレンジ」

文章を読んで問題を解いたあとに、文章で書かれている内容を自分の言葉で表現する練習をします。

●言語事項

知識問題を解いて、言葉の力を身につけていきます。

●ホームワーク

「例題」「練習問題」で習得した読み方・考え方を使って一人で解いていきます。

もくじ

1	物語(1) ふしぎの時間割	2
2	物語(2) サキの星	10
3	説明文(1) 春の始まり	18
4	説明文(2) 目ざめの季節	26
	まとめの問題(1)(2)	34

1 ふじぎの時間割／擬声語

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

15

10

5



読む基本

□ 「ひさし」は、どのような登場人物ですか。

① 体が（大きい・小さい）

② すきなものは

□ (1) この場面は、どこですか。

ア 職員室 イ 食堂

ウ 教室 エ 給食室

□ (2) 線①「先生が教室を出ていくと」とありますが、何

のために出ていったのですか。

ア 授業のかたづけをするため。

イ 生徒に計算問題をさせるため。

ウ カレーライスを食べるため。

エ エプロンをとりにいくため。

□ (3) 線②「こまったことに……すきなのだ」とありますが、なぜこまるのですか。



このお話は、要するにどういいうお話でしたか。
(どんなことを書いてもかまいません。)

(岡田淳「ふしぎの時間割」より 偕成社刊)

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

30

25

20



このお話は、要するにどういいうお話でしたか。
考えてみましょう。

と思ったから。

ひさしの

が

文章中からそれぞれ三字で書きぬきましょう。

□(5) ——— 線④ 「みんながいつせいにひさしを見た」とありま

- ア おなかがすいたとき。
- イ おなかがいっぱいするとき。
- ウ カレーライスを食べたとき。
- エ カレーライスをおかわりしようとするとき。

□(4) ——— 線③ 「おなかの鳴る音」とありますが、どういいうと
きに鳴る音ですか。

- ア 自分が、たくさんおかわりできるから。
- イ 自分が、たくさんおかわりできないから。
- ウ 自分は、あまりおかわりしたくないから。
- エ みんなは、あまりおかわりしないから。

♠ 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。



練 れん

習 しゅう

問 もん

題 だい



著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

15

10

5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(岡田 淳「ふしぎの時間割」より 偕成社刊)

30

25

20

□(1) — 線①「おい、ちよつとまつてくれよ。たしかにおれはカレーライスのことを考えてたよ。でも、ぜったいに、いまの、おれじゃない」とありますが、これをいったのは、だれですか。文章中から書きぬきましましょう。

□(2) — 線②「みんな」とありますが、このとき、みんなは、どのように考えていますか。

- ア ひさしのおながが鳴った。
- イ ひさしのおながが鳴ったのではない。
- ウ メイコのおながが鳴った。
- エ だれのおながが鳴ったのかわからない。

□(3) — 線③「メイコ」とありますが、どのような登場人物とうじょうぶつですか。

- ア 体が大きい。
- イ 転校生
- ウ いかにもおなかを鳴らしそう。
- エ ひさしとはおさななじみ。

□(4) — 線④「信じられなかった」とありますが、何が信じられなかったのですか。

- ア メイコが鉛筆をにぎっていなかったこと。
- イ メイコが赤い顔をしていたこと。
- ウ メイコが両腕でおなかを小さくしていたこと。
- エ メイコのおながが大きな音で鳴ったこと。

□(5) みんなが、おなかを鳴らしたのは、ひさしではなさそうだと気がついたのは、あゝえのうち、どの段落だんらくですか。



このお話は、要するよつにどういうお話でしたか。



思考・表現しこうひまげんチャレンジ

ポイント

(1) 擬声語とは

「擬声語」とは、「ワンワン」のような動物の声や、人の声、「ジャブジャブ」のような何かの音をそのままねして表した言葉です。ふつうは、カタカナで書きます。

れい ニャー（ねこの鳴き声）

ミーミー（羊の鳴き声）

ドスン（重い物が落ちる音）

トントン（物をつづけて軽くたたく音）

擬声語は、わたしたちがふだんからよく使っている言葉です。動物の鳴き声、風の音、足音など、わたしたちの生活の中にはたくさんあります。

(2) 音や感じを正しくつたえる擬声語を使う

擬声語を正しく使うと、自分のつたえたいことを相手にわかりやすくつたえることができます。

れい ドアをドンドンたたく。

↓ドアを強くたたいているとわかる。

ドアをトントンたたく。

↓ドアを軽くたたいているとわかる。

1 次の文の□にあてはまる言葉をあとのア～エから1つずつえらび、記号で答えましよう。

□(1) すずめが□鳴いている。

□(2) かみなりが□鳴っている。

□(3) 強い風が□ふいている。

□(4) 手を□たたく。

ア パチパチ イ チュンチュン

ウ ビュービュー エ ゴロゴロ

- (1) □ (2) □ (3) □ (4) □

2 次の文の——線部は、それぞれどんな感じのする言葉ですか。あとのア～ウから1つずつえらび、記号で答えましよう。

□(1) バシヤバシヤと水で顔をあらう。

□(2) パシヤパシヤと水をかける。

ア あらあらしく、はげしい感じ。

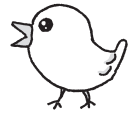
イ きびしく、つめたい感じ。

ウ ていねいで、軽い感じ。

- (1) □ (2) □

③ 次の絵に合う擬声語で、文の にあてはまるものを、あとのア～ウから一つずつしえらび、記号で答えまじょう。

(1)



ひよこが と鳴く。

ア バシバシ

イ メエメエ

ウ ピヨピヨ

(2)



牛が と鳴く。

ア モー、モー

イ リンリン

ウ ケロケロ

(3)



紙を とやぶく。

ア ポンポン

イ キーキー

ウ ビリビリ

(4)



せみが と鳴く。

ア ホウ、ホウ

イ ミーンミーン

ウ ブンブン

(5)



波が と打ちよせる。

ア ザブーン

イ コトン

ウ ドカン

④ 次の①・②の文をくらべると、それぞれどんなことがわかりますか。あとのア～ウから一つずつしえらび、記号で答えまじょう。

(1)

- ① ドアをパタンとしめた。
② ドアをバタンとしめた。

ア ドアをらんぼうに強くしめたこと。

イ ドアを何度もしめなおしたこと。

ウ ドアをふつうに軽くしめたこと。

①

②

(2)

- ① えだをボキッとおった。
② えだをポキッとおった。

ア 小えだを、軽い力でかんとんにおったこと。

イ 太くてかたいえだを、力を入れておったこと。

ウ さわらないのに、えだがひとりでおれたこと。

①

②



ホームワーク ふしぎの時間割

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

20 15 10 5

□(1) — 線①「ぶったまげた」とありますが、どういう意味ですか。

- ア 笑わらいたくなくなった。
- イ 泣きたくなくなった。
- ウ びっくりした。
- エ がっかりした。

□(2) — 線②「泣き声」とありますが、泣いているのは、だれですか。文章中から書きぬきましょう。

□(3) — 線ア～エの中で、じっさいにはありえないことは、どれですか。

- ア おもわず両手で耳をふさいだ
- イ びくつと体をひいた
- ウ ようやくの思いで出入り口にたどりつく
- エ ひゆるひゆるっと出入り口が小さくなってしまった

□(4) — 線③「白い服に白い帽子」とは、何を表あらわしていますか。

- ア 先生
- イ 給食係
- ウ 看護師かんごしさん
- エ メイコ

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(岡田淳「ふしぎの時間割」より 偕成社刊)

40

35

30

25

言葉トレーニング

◎ 次の各文の () にあてはまる擬声語をあとから
 一つずつえらんで、□に記号で答えましょう。

□(1) 古いすが () いう。

□(2) サイレンが () と鳴る。

□(5) ———線④「ちょっと大きい」とは、何を表していますか。文章中から二字で書きぬきましょう。

□(6) この場面では、とんでもないことが起こっています。何によって、こんなことになりましたか。次の□にあてはまる言葉を、文章中から三字で書きぬきましょう。

メイコの

- ア ガタンゴトン
- イ ウー、ウー
- ウ カチャカチャ
- エ ギシギシ